



Good News for Japan

もう、これまでと同じではない

平成二十五年三月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行



大將 リンダ・ボンド

数年前のことです。イースターの日、救世軍のある小隊(教会にあたる)の日曜礼拝に出席しました。

説教者が話し始めましたが、それはいつもの説教とは違っていました。この経験豊かな説教者にしては、あまりに単純な説教でした。わたしは、この説教者の母国語が英語でないから、英語を話す会衆の前に用心深くして、込み入った神学用語を避けたんだろう、と思いました。それほど、彼はイース様の物語を単純に語ったのです。それは、決して説教者大賞を取るような説教ではありませんでしたが、わたしの心は強く揺さぶられました。涙が流れました。

この説教は、忘れられないものとなりました。

このようなことは、説教だけでなく、キリスト教音楽にもあてはまるでしょう。救世軍も他のキリスト教会と同じように、信じていることを喜んで歌にしてみました。イース様についての物語が音楽の形をとる時、それは、わたしたちの記憶にしっかりと刻み込まれます。歌う度に、いつも、いつも、繰り返し思い出すのです。イース様の生涯を、イース様の死を、イース様の復活を、そして、今日それが与えてくれる意味のすべてを。

今、心にイースターの歌の一節が浮かんでいます。

「重荷に押しつぶされただひとり歩むとき
イースご自身が近づき

共に歩いてくださった」これはルカによる福音書二四章にある記事を描いた歌ですが、今なお、わたしたちに強く語りかける何かがそこにあります。

二人の弟子が、イース様が十字架上で死なれた後、失意の中で故郷に向かって歩いていました。残酷な十字架刑を目の当たりにしたら、人の心は壊れてしまうでしょう。しかも、十字架

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

につけられたのが最愛の人だったなら? 何の罪もないのに? 罪がないだけでなく、一つも欠け目がなく、完全な愛の人なのにな? これほど残酷な光景に、だれが耐えられるでしょうか。

二人の弟子の悲しみは、イース様を救い主として、世界の希望として信じていたことで、増幅されました。長年待ち続けていたその光が、消えてしまいました。すべてが暗闇と絶望と化してしまっただけです。彼らは、うちのめされ、押しつぶされ、何も見えなくなっていました。

今、この文を読んでいる多くの方々にとつて、この物語は理屈に合わないように思えるかもしれません。神様は、その独り子イエス様をくださるほどわたしたちを愛してくださいました。イース様は、赤ん坊になつて、飼葉おけの中に生まれてくださいました。生きた模範を示し、病気をいやし、説教し、奇跡をおこなわれました。そして、死なれました。犯罪人のよう

(次ページ五段目に続く)

救世軍とは

The Salvation Army

国際的な組織のキリスト教会(プロテスタント)で、世界百二十六の国と地域で働きを進めています。



一八六五年、イギリスの牧師ウィリアム・ブースが、東ロンドンの貧しい人々、虐げられて

人々に神の愛を届けようと伝道を始めました。やがて、人々の一番必要としているものを提供しないで神の愛を伝えることはできないと、物心両面からの救いをめざすようになり、医療や社会福祉の働きが起こされてきました。そして、その時々の人々のニーズに迅速に対応するため、軍隊流の組織を取り入れ、アルコール依存症者の回復支援をおこなっている団体として、信

徒もアルコール抜きのライフスタイルを採りました。

日本での働きは一八九五

(明治28年)に始まりました。廃娼運動や失業者対策を推し進め、結核療養所や婦人保護施設、児童養護施設の設立などに力を尽くしました。また、キリスト教、聖書の神をわかりやすく伝え、多くの人々が真の神を信じるようになりました。

現在、伝道の拠点である四十六の小隊(教会にあたる)と十の分隊(伝道所にあたる)、十九の社会福祉施設、二つの病院(ホスピス併設)を通して働きを進めています。

年間を通して、街頭生活者支援や災害被災者支援、様々な社会奉仕活動をおこなっています。これらは、社会鍋募金などを通して献げられたお金を資金としています。



内戦で避難していた人々が戻り、コミュニティ再生のために支援を始めた救世軍(コンゴ民主共和国)

国際組織の救世軍は、他の国々においても、様々な災害被災者への支援と共に、内戦などからの復興支援、開発途上国での職業訓練、教育の充実などによる自立支援、HIV/AIDS対策プログラム、トラフィック

ング(人身売買)対策などにも力を尽くしています。

また、世界の救世軍は、それぞれの国ごとにパートナーが定められ、財政的に、また様々な面で折り合い、支援し合っています。日本の救世軍は、南ア



地域医療に取り組んでいるハリー・ウィリアムズ病院(ボリビア)

リカのエクアドル・ペルー・ボリビア・チリと、ヨーロッパのポルトガル、アフリカのルワンダ・ブルンジ、そしてバングラデシュとオーストラリア(南部)とパートナーになっており、これらの国々でおこなわれている、貧困や災害による人々のニーズに応える具体的なプロジェクトのために支援をおこなっています。

国や地域の状況に応じて必要とされる働きは異なりますが、救世軍のすべての働きは、キリストの愛に基づき、人種や思想を超えて人々に仕えるためのものなのです。

東日本大震災被災者支援活動を継続しています

継続しています

一昨年の東日本大震災では、震災直後から被災地での救援活動を開始するとともに、海外の救世軍も募金活動を開始し、さつそく世界各地から献金が送られてきました。それらの献金が、岩手県大船渡市「おおふなと夢商店街」、宮城県南三陸町「南三陸さんさん商店街」、宮城県女川町「希望の鐘商店街」の早期建設をはじめ、大小様々な救援・支援活動に役立てられました。

これまでに、被災地三県でおこなった緊急支援、物資支援、復興支援の総額は、約八億円になります。救世軍は、これからも、被災地の復興のため、変化するニーズを調査しながら、現地の要請に応える支援を続けます。特に人々の精神的なケアの必要を覚えて、人々に寄り添う支援を継続していき



大船渡市の仮設住宅へ年越しそばを届け、交流の時をもつ



女川漁協・出島(宮城県)へ漁場監視兼救急搬送船を提供

3月～4月 救世軍では 克己週間 と呼ぶ 募金活動をおこないます

これは、今から約120年前、救世軍の創立者ウィリアム・ブースが信徒に「それぞれ1週間だけ何かを節約して(克己して)、そのお金を献げよう」との呼びかけで始まり、目的はヨーロッパ各地に働きを広げるためでした。この精神は、今日まで引き継がれ、毎年、世界の様々な国でおこなわれている働きや災害被災者の支援活動などを進めるため、募金がおこなわれています。

この時期、信徒は率先して献金するとともに、救世軍の制服を着た伝道者や信徒が戸別訪問をし、趣旨を説明して献金を募ります。

この趣旨に賛同して下さる方は、次の方法でも献金が可能です。

- 郵便振替
00180-5-4400
加入者名 救世軍本営
 - 現金書留
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-17
救世軍本営
 - インターネット
救世軍ホームページ
<http://www.salvationarmy.or.jp>
- *いずれの場合も、通信欄に「克己週間募金」とお書きください。
- お問い合わせは、
救世軍本営 伝道事業部まで
TEL 03-3237-0881

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

- 発行日 毎月一日・十五日
- 定価 一日号一部五〇円(千六〇円) 十五日号一部六〇円(千六〇円) クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(千六八〇円) 一年分(二七〇円)送料七二八円
- 振替 〇〇一八〇一五四四〇〇

印刷兼 救世軍 代表者 勝地次郎

編集人 齋藤恵子

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営 印刷所 図書印刷株式会社

創立者 ウィリアム・ブース 大将 リンダ・ボンド(万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 勝地次郎(救世軍本営 東京都千代田区) <http://www.salvationarmy.or.jp>

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)